

ワクチン起源は225年前

新緑が目には鮮やか、風が心地いい季節となりましたが、いかがお過ごしでしょうか？ 新型コロナウイルスのワクチンの接種も徐々に進んできましたが、まだまだ気の抜けない毎日です。このウイルスの感染が広がり感染症の怖さを感じることになりましたが、人類とウイルスの闘いの歴史

は、昔から長く続いています。その中でも最も有名なものは「天然痘」です。その致死率は30%以上といわれ、全身の皮膚に発疹症状が現れ、臓器にまで及びます。独眼竜といわれた伊達政宗もこの病気で片目を失明したほどで、後遺症も多いです。

日本でも流行した天然痘は、ワクチンが世界で最初に作られ、根絶された伝染病。そのワクチンの歴史は古く1796年にイギリスの医学者、エドワード・ジェンナーが開発しました。

当時、彼は牛から感染

する「牛痘」という病気にかかった人が、その後天然痘にはかからないということを確認し、牛痘にかかることで天然痘に対する免疫ができると考えました。彼は牛痘患者



からうみを取り、ある少年の腕に接種し、数週間後に今度はその少年に天然痘患者から取ったうみを接種しましたが、その少年は天然痘にはなりませんでした。これがワクチンの始まりです。

このジェンナーによる

牛痘種痘法は、鎖国していた日本にも伝わり、江戸時代にこの方法で多くの人が命を救われました。そして184年後の1980（昭和55）年にWHO（世界保健機関）が天然痘の世界根絶宣言を行い、この病気を地球上から撲滅しました。もちろん新型コロナウイルスと人類の闘いはもう少し続きそうですが、今私たちが感染を広めないように意識することが大切です。近い将来に皆さんがマスクを外して笑顔で過ごせますように。

（薬剤師 西 美香）

薬話
やまやま

〔65〕

松阪地区薬剤師会

